

■特別支援学級における実践事例

読みに困難のある子どもの指導に マルチメディアDAISY図書を活用するⅡ

栃木県鹿沼市立みなみ小学校
富永 由紀子

効果的にICTを活用して、 特別支援教育の充実を図る

本校はマルチメディアDAISY図書を活用して、今年で2年目になります。

在籍221名の児童の中には、外国とつながりのある子どもや児童養護施設から通学する子どものほか、特別な支援を必要とする子どもが少なからずいます。

これらの子どもたちの中でも「読み」に困難さを抱える子どもたちを対象として、積極的にマルチメディアDAISY図書を活用して指導にあたっています（iPadを用いています）。

「読み」に困難のある子どもたちは、紙ベースの学習から多くの情報を得ることがむずかしく学習に支障をきたしたり、語彙の少なさから子ども同士のコミュニケーションにも消極的になったりする傾向が見られました。

それらの子どもたちに対して、目的を明確にし、マルチメディアDAISY図

書を活用することで、一人ひとりの子どもたちに成果が見られました。

そこで、ここでは、実践のまとめとして、どのような場面でどのように活用したのかについて記すこととします。

(1) 授業での活用

特別支援学級に在籍する子どもたちや日本語指導教室で指導を受ける子どもたちは、多くの場合「読み」に困難さを抱えています。

困難の状況は学年や個人によって千差万別ですので、一人ひとりの読みのスキルや教科学習の補助情報の獲得状況に合わせて、指導目的や指導内容、教材などを選択することが大切だと思います。指導者の意図を明確にして教材を選択し、指導したところ効果のあった内容を5つに分けてまとめました。

①文字の習得を目的とした指導

(一人一台)

発達障害のある1年生や外国籍の児童に対して、ひらがななどの文字を指導する際には、カードやかかるたなどを用いるのが一般的ですが、本校ではそれらの指導に加えて、マルチメディアDAISY図書も活用しています。

外国とつながりのある子どもの場合、母国語にはない発音があったり、耳で聞いて覚えてしまった正しくない発音があったりしました。間違っただまの状態にしておくと、文字表記の場面で正しく書くことができません。「ランドセル」を「ダンドセル」、「こくばん」を「おくばん」などと表記することになってしまうのです。そこで正しい音と文字を1対1対応で対応させて指導することが大切になります。

カードを用いた指導ばかりでは、興味・関心・意欲を持続させることがむずかしいですが、マルチメディアDAISY図書を活用することで、楽しく有効に学習を進めることができました。

ハイライトされた文字を一人ひとりの読みのスピードに合わせて再生することで認識できる文字が増えたことが、子どもたちの意欲の向上につながったと思われます。特に『やおやさん』などは、何度も活用しました。



②語彙の拡充を目的とした指導

(一人一台)

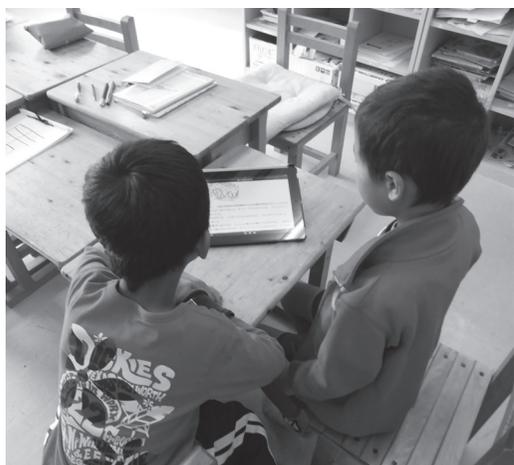
「読み」に困難さがある子どもたちは、読書の機会が減少する傾向にあるため、「語彙」がなかなか増えにくい状態にあります。

学習するとき使用する「学習言語」だけでなく、日常生活のさまざまな場面で使用する「生活言語」も増えにくいのが現状です。そこで、『かぞえうたのほん』などを活用して「夜中」や「夜明け」、「しらんぷり」「きゅうくつ」などの語彙を一つひとつ丁寧に指導しました。

すると、感情を表す言葉や状態を表す言葉が少しずつ増えていき、友達との会話の精度が増していきました。文脈の中の言葉の使い方を聞くことで、日常的に使用するもの以外の語彙力が向上したのだと思います。特に低学年においては効果が高かったように感じています。

③読みの流暢性・学習情報の獲得を 目的とした指導（一人一台）

一人ひとりの「読み」のスキルに合わせてスピードを設定し、ハイライトされた部分を一緒に読むことで、読みの流暢性を高めようと意図しました。活用回数を重ねるごとにスピードが速くなり、それと同時に内容理解が深まり、情感を込めた読み方もできるようになりました。また、6年生では教科書の「平和の砦を築く」という教材の事前学習として『ひろしまのピカ』を活用することで、教科書の内容理解が深まりました。



④読解（学び合い）を目的とした指導 （ペアもしくは少人数で一台）

本校は子ども同士の「学び合い」を学校課題にしていますので、少人数の子どもたちで同じ教材を学び、ペアやグループでその教材について話し合い、内容理解を深めることができるよ

うな場を設定して指導しました。

どの学年の子どもたちにもわかりやすく楽しい教材として『11ぴきのねこ』シリーズを選択しました。マルチメディアDAISY図書の中のねこの表情や絵本の中の言葉などから、ねこの気持ちを想像することができました。

通常の学級の授業ではあまり発言しない子どもたちからもさまざまな意見や考えが発表され、学び合うことができました。また、マルチメディアDAISY図書使用の前後に話し合い活動をすることによって、教材の内容を理解する力が向上し、他の学習の場面でも生かせるようになりました。



⑤情操教育を目的とした指導 （ペアもしくは少人数で一台）

読書の機会が少ない子どもたちは、他の多くの子どもたちが知っているお話でも知らないことが多いもので

す。そこで、情操教育の一環として昔話を教材として選択し、指導しました。『一寸法師』や『花さかじい』『うらしまたろう』などを喜んで見たり聞いたりしていました。

(2) 朝の読書や休み時間での活用 (一人一台)

朝の読書は、子どもたちの情操教育を担うだけでなく、子どもたちの想像力を高めたり、本を読むことの楽しさを知ったりする良い機会です。

しかし、「読み」に困難さのある子どもたちにとっては、自分の力だけで思うように本が読めず、楽しい時間となっていないこともあります。

そこで、読書の楽しみを目的として、マルチメディアDAISY図書を活用しました。自分の読みたい本を自分で選択して、マルチメディアDAISY図書を活用することで他の本も読んでみたいという気持ちが沸き起こり、休み時間にも読書を楽しむ姿が見られるようになりました。

はじめは、各自が知っているお話である『魔女の宅急便』などが選択されましたが、やがて知らないお話である『山寺の化け物』や『大どろぼうはおかしなサンドイッチやさん』などを選択して楽しんでいました。



考察

マルチメディアDAISY図書は、聴覚情報である音声と視覚情報である文字・挿絵の2チャンネルから学ぶことができるため、さまざまな目的に対応することができるのだと思います。

「読み」に困難さのある子どもたちは、多くの場合、「読む」ことから情報を獲得する機会が減少します。その減少に伴って「語彙」や「情報」「知識」などを得る機会も減少してしまうことが多いのも現状です。

しかし、本校での実践のように、授業や朝の読書などでマルチメディアDAISY図書を有効に活用することによって、「読み」に困難さのある子どもたちに、「自分の学び」や「読書の楽しみ」や「学び合い」の機会を与えることができるのではないかと思います。「読みにくさ」を「学びにくさ」と同義にさせないような配慮が学校

教育の現場には必要であり、これから学ぶことの多い子どもたち一人一人にとっての学びが保障できるようにしていきたいと考えています。

そのためにも、マルチメディアDAISY図書をどのような場面でどのように活用していくかは、指導者である教師がきちんと目的意識をもち、一人ひとりの子どもに合わせて指導内容や教材を選択することで、より有効になっていくのではないのでしょうか。

今後の期待

・挿絵が見えなくなることや文字だけ

の画面になることがあり、そのような場合には縮小したりする必要があり、改善していただけると、子どもたちにも使い勝手がよくなるのではないかと思います。

- ・子どもたちに人気のあるお話シリーズなどが出版されることを望みます。
- ・図鑑など、総合的な学習の時間の調べ学習に使える本が出版されることを望みます。
- ・社会科や理科の学習の補助教材となるような本が出版されることを望みます。